機動戦士ガンダムＳＥＥＤＤＥＳＴＩＮＹ－ミネルバ戦記

フォン・スパーク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
機動戦士ガンダムＳＥＥＤＤＥＳＴＩＮＹ－ミネルバ戦記

【Ｎコード】
Ｎ６３４４Ｈ

【作者名】
フォン・スパーク

【あらすじ】
Ｃ：Ｅ７３年（コズミック・イラ）、プラント国に最新精鋭艦、ミネルバが完成した。その戦艦に少年、シン・アスカが搭乗した。そしてシンは艦魂『ミネルバ』と必然的な出会いをした。シンとミネルバは助けあいながらいろんな人たちと出会い成長していく。シンとミネルバは苦難の乗り越えて未来へと立ち向かってゆく！！

ＦＩＬＥ０，赤服の少年と艦魂（前書き）

この小説はガンダムＳＥＥＤＤＥＳＴＩＮＹと艦魂のクロスオーバー小説です。
ＭＳや戦艦は他のガンダムシリーズから出す場合があります。
この小説はＳＥＥＤＤＥＳＴＩＮＹの主人公であるシン・アスカと艦魂のミネルバや彼らを取り巻く人たちを中心に書きます。
それでは機動戦士ガンダムＳＥＥＤＤＥＳＴＩＮＹ－ミネルバ戦記をご覧ください。

ＦＩＬＥ０，赤服の少年と艦魂

シン・アスカはプラント国の軍、Ｚ・Ａ・Ｆ・Ｔ（ザフト）の精鋭部隊のＦＡＩＴＨ（エイス）所属のＭＳ（モビルスーツ）のパイロットである。

シンは今日からザフト軍の最新精鋭母艦、ミネルバの所属となった。

「今日からミネルバに配属か……。緊張するけど頑張ろう」

そう呟いていると後ろからシンと一緒の赤い制服を着ている赤毛の女の子と緑色のザフト軍の制服を着ている女の子がシンを呼んできた。

「シン、おはよう」

「おはようございます、シンさん」

「ルナ、メイリン、おはよう。ここに居るってことは2人もミネルバに配属されたのか！？」

「ええ、私はＭＳパイロットでメイリンが通信オペレーターよ。シンは？」

「俺もＭＳのパイロットなんだ。これからよろしくな」

「「うん、よろしくね」」

ルナマリアとメイリンの言った言葉がハモった。なぜかこういうときだけ姉妹に思える。

「じゃあミネルバに入ろう」

ミネルバ所属のザフト隊員が全員集まった。

「私はこのミネルバの艦長を務めることになったタリア・グラディス大佐です。こちらは副官のアーサー・トラインです。左から順番に姓名と階級と役職を答えて下さい」

「ヨウラン・ケント技術軍曹であります。」

「ヴィーノ・デュプレ技術伍長です」

「マッド・エイブス准尉であります。役職は技術長です」

「レイ・ザ・バレルだ。階級は大尉だ。ＭＳパイロットだ」

「メイリン・ホーク少尉です。通信オペレーターをします」

「ルナマリア・ホーク中尉です。ＭＳパイロットです」

「シン・アスカ中尉です。同じくＭＳパイロットです」

「では、ここで解散をします。バレル大尉とホーク中尉とアスカ中尉はこちらへ」

シンとルナマリアとレイは司令室に残っていた。少し待っているとグラディス大佐が話しかけてきた。

「３人を残らせたのはＭＳの情報を渡すためです。アスカ中尉はＺＧＭＦ－Ｘ５６Ｓインパルスです。ＧＵＮＤＡＭシステムを搭載しています。ホーク中尉はザクウォーリアです。バレル大尉はブレイズザクファントムの指揮官機です。資料に目を通しておいてください。それでは」

大佐はＭＳの資料を渡すと司令室を出て行った。レイも出ていくとシンとルナマリアも司令室を出て行った。

シンがミネルバ部隊に配属されて1週間がたった。訓練を終えてブリッジに行った。ブリッジに来たら少女がいた。少女はザフト軍の白服（隊長クラスの制服）を着ていた。

それは必然の出会いだった。

シンは何かに惹かれて少女の方に歩いて行った。

「あの……、俺はシン・アスカ。階級は中尉だ」

「知ってます。艦長に自己紹介をしてた時に聞いてましたから」

「そうなんだ。それで、君は何なのか教えてくれるか？」

「私は……この船、『ミネルバ』の艦魂です」

艦魂。それはすべての艦艇に艦魂は宿る。守護者だ。言い方を変えれば精霊だ。艦魂は容姿が若い女性とされたきた。艦魂が見える人物は霊感が強い者や艦魂の精神の波長が似ている波長をもってる者位にしか艦魂は見えない。

突然言われたから戸惑ったが、すぐに落ち着きを取り戻した。

「信じてもらえますか？」

「ああ、信じるよ。仮にも見えてるしね」

「良かった～。それに中尉は私の初めての人だしね」

「初めてって……君を見てくれた人は俺が初めてなのか？」

「はい。そうなんです」

「へぇ～。それで君のことは何て呼んだら良いかな？」

「私たち艦魂は名前が艦名で呼び合っているので、ミネルバと呼んでください、シン中尉」

「うん、よろしくね、ミネルバ。これからよろしくな。お前の初めての友達として」

「こちらこそよろしくお願いしますね、シン中尉」

このとき、シンとミネルバの物語が始まった。

ＦＩＬＥ０，赤服の少年と艦魂（後書き）

キャラ紹介

『シン・アスカ』
出身地：オーブ連合首長国
役職：ザフト軍ミネルバ隊所属の中尉
搭乗ＭＳ：ＺＧＭＦ－Ｘ５６Ｓインパルスガンダム、ＺＧＭＦ－Ｘ５６Ｓ／αフォースインパルスガンダム、ＺＧＭＦ－Ｘ５６Ｓ／βソードインパルスガンダム、ＺＧＭＦ－Ｘ５６Ｓ／γブラストインパルスガンダム
身長：１６８ｃｍ
年齢：（Ｃ，Ｅ７３年現在）１６歳
誕生日：９月１日
髪型：寝癖が付いている漆黒の髪
家族構成：父親（戦死）母親（戦死）妹、マユ（戦死）
好きなもの：ガンダム、艦魂、ホーク姉妹、家族、平和、レイ
嫌いなもの：フリーダムガンダム、ストライクフリーダムガンダム、友人や家族をバカにされること、自分を犠牲とする人、誰かが死ぬこと、アスハ家
この作品の主人公。艦魂が見える。２年前に起きた戦争で家族を失い、その元凶がこの戦闘に参加したフリーダムガンダムとアスハ家と思い込み復讐しようとしている。ルナマリアとメイリンは幼馴染。ＭＳ、インパルスガンダムを駆り、この戦争は何なのかを考え、己の信念を貫こうとする。あまりにも鈍感でミネルバとルナマリアとメイリンから好意を寄せられてるのに気付かない。

ミネルバ
出身：プラント国

身長：１４９ｃｍ
髪型：銀色の長髪
年齢：（Ｃ、Ｅ７３年現在）０歳
外見年齢：１３，４歳
誕生日：８月１４日
家族構成：妹、ファルメル（予定）
好きな物：シン、シンと一緒に居ること、シンと両想いになること、仲間と楽しい日々を過ごす、平和
嫌いなもの：ルナマリアとメイリン（恋のライバルだから）、シンに嫌われること、誰かが死ぬ事、敵軍、戦争
この作品のメインヒロインの１人。最新精鋭艦、『ミネルバ』の艦魂。ザフト軍の象徴として生まれた戦艦。指揮官には向いていない。理由は仲間想いで犠牲を嫌うから。初めて友達になってくれたシンが好き。シンがルナマリアとメイリンや他の艦魂と一緒に居たり喋ってるところを見ると焼きもちを焼く。温厚で優しい性格だから友達が多く、部下からもとても慕われている。

今回から始まったこの小説は機動戦士ガンダムＳＥＥＤＤＥＳＴＩＮＹが原作ですが、原作と違う所があるのでご了承ください。この作品はシンとミネルバとルナマリアとメイリンの四角関係も書こうと思います。
キャラクターは1話につき2人紹介します。無理な場合はキャラクター紹介をします。
階級のことですが、これは適当です。
次回の投稿を楽しみにしててください。では。

ＦＩＬＥ１（前書き）

キャラ紹介

レイ・ザ・バレル
出身地：不明
役職：ザフト軍ミネルバ隊所属の大尉
搭乗ＭＳ：ブレイズザクファントム（指揮官機）
身長：１６８ｃｍ
年齢：不明
誕生日：不明
髪型：セミロングの白金
家族構成：不明
好きなもの：プラント国（ザフト軍）、ギルバート・デュランダル、ミネルバ隊の仲間たち
嫌いなもの：オーブ軍、デュランダルをバカにされること
プロフィールの多くが謎に包まれている青年。プラント国最高評議会議長であるギルバート・デュランダルの信念を理解している人物の一人。シンのよき理解者の１人であり、親友。

FILE1

「シン・アスカ、インパルスガンダム、出撃します」

「ガナ―ザクウォーリア、ルナマリア・ホーク、出ます」

「レイ・ザ・バレル、ブレイズザクファントム、出る」

ザフトの戦艦、『ミネルバ』は今、オーブ近隣の海に居る。偵察任務のためだ。もしかしたらオーブ軍のＭＳが迎撃をしてくる可能性があるから、インパルス、ガナ―ザクウォーリア、ブレイズザクファントムの３機に『ミネルバ』の護衛を命令した。

護衛を始めて数１０分経ったとき、『ミネルバ』のグラディス大佐から通信が入った。

「アスカ中尉、左方の様子はどうですか」

「異常はありません。引き続き、護衛をします」

通信を切って少し経つと、『ミネルバ』の方から爆発音が聞こえた。オーブ軍のＭＳ、Ｍ１アストレイ１０機がミネルバを攻撃してきた。爆発音が聞こえた後、メイリンから通信が入った。

「アスカ中尉、敵ＭＳが攻撃をしてきました。迎撃を開始してください」

「了解した。シルエットフライヤーの出撃を要請する」

通信が切れた後、シンはある思いが廻った。それは、『ミネルバ』の艦内に居る仲間や『ミネルバ』の艦魂であるミネルバを守りたいという思いだ。シンは今の戦いは皆を守るための戦いという考えを見出した。

「インパルス、ドッキング開始する」

インパルスガンダムはフォースシルエットとドッキングを開始した。フォースシルエットの翼の部分がシルエットフライヤーと分離して、翼の部分がインパルスガンダムの背中に合体する。

「ドッキング完了。フォースインパルスガンダム、シン・アスカ、敵を迎撃する!!」

フォースインパルスは戦場へと飛翔した。

『ミネルバ』の甲板からシンの乗るフォースインパルスを見つめる少女がいた。この戦艦の艦魂、ミネルバだ。ミネルバは頭と脇腹を出血をしている。Ｍ１アストレイに攻撃された時に喰らったものだ。

幸い、大怪我ではなかった。

ミネルバはシンが無事に帰ってこれるように祈った。

「…シン中尉……必ず帰ってきてください」

「きりがないな。こいつ等は少数精鋭部隊か」

レイはそう呟きながらＭ１アストレイに攻撃を仕掛けた。

「きゃあああッ！」

「ルナマリア、大丈夫か」

「何とか大丈夫みたい」

「そうか。シンが来るまで持ちこたえるぞ」

「わかったわ」

その瞬間、Ｍ１アストレイからビーム攻撃がレイのブレイズザクファントムに直撃しようとしていた。しかし、アストレイの攻撃は当たらなかった。なぜなら１機のＭＳが守ってくれたからだ。

「ふう……何とか間に合ったな。２人とも、大丈夫か？」

「来るのが遅すぎだぞ、シン」

「そうよ。あの時あんたが来てくれなかったら私たちは死んでたのよ！」

「はい、すいません……って誤ってる場合じゃないんだっけ。皆、戦闘を再開しよう」

そんなやり取りが終わった後、３人は攻撃を開始した。

レイのブレイズザクファントムがビームトマホークを投げ、Ｍ１アストレイを１機破壊した。

ルナマリアもオルトロス長距離射程ビーム砲でＭ１アストレイを５機撃破した。

「後、４体か……。後は俺が全滅させる。皆を守るんだ」

シンはフォースインパルスのヴァジュラ・ビームサーベルを構えて３機のアストレイをビームの剣で切り裂く。

「これで、終わりだアアアッ！！」

シンはヴァジュラ・ビームサーベルをしまうと、高エネルギービームライフルを最大パワーでＭ１アストレイを撃った。

３機のＭＳによりオーブ近隣の海での戦闘は終了した。

シンは『ミネルバ』にすぐ戻ると、ミネルバを探してた。

「ミネルバは何処か「シン中尉……戻って入らしてたんですね……ッ」どうしたんだよミネルバ、その傷はッ！？」

「今日の戦闘で被弾してしまって。艦魂は艦に攻撃を受けると艦魂も傷を負うんです」

「手当てはしたの？」

「いいえ、してません」

「なら俺の部屋で治療をするから……と言っても応急処置だけどいいよな」

「はい。それで早くしてくれますか？」

「あ、ごめんごめん。じゃあ行こう」

シンとミネルバの様子を見てた者が2人いた。それはルナマリアとメイリンだった。

「シンさん、他の女と一緒に居るです～」

「あいつは何やってるのよ！！メイリン、追いかけるわよ！」

「うん。行こう、お姉ちゃん！」

この2人はとても怒っている。シンはこの後どうなるのかは誰も知るはずがない。

～続く～（ほんとに続くのかわからなくなってきました……）

ＦＩＬＥ１（後書き）

キャラ紹介

ルナマリア・ホーク
出身地：オーブ連合首長国
役職：ザフト軍ミネルバ隊所属の中尉
搭乗ＭＳ：ガナ―ザクウォーリア
身長：１６４ｃｍ
年齢：１７歳
誕生日：７月２６日
髪型：アホ毛がある真紅の色
家族構成：父、母、妹・メイリン
好きなもの：シン（恋愛対象として）、メイリン、レイ（仲間として）
嫌いなもの：ミネルバ（恋のライバルとして）、戦争、オーブ
シンの幼馴染。子供のころからシンの姉的存在である。シンをめぐってミネルバとメイリンと喧嘩をしている。シンはこんなルナマリアを本当の姉として見ている。

メイリン・ホーク
出身地：オーブ連合首長国
役職：ミネルバ隊所属のオペレーター。階級は少尉。
身長：１６０ｃｍ
年齢：１６歳
誕生日：６月１２日
髪型：ツインテールの赤
家族構成：父、母、姉・ルナマリア
好きなもの：シン、ルナマリア、ミネルバ隊の仲間たち、ミネルバ

嫌いなもの：戦争、人が死ぬこと
シンの幼馴染。シンには多少の恋愛感情がある。若い割にハッキングができる。体型を気にしていて、とくに姉より胸が小さいことだを気にしている。外出許可が出た時は大量の化粧品を買っている。

作者のフォン・スパークです。今回は何にもやることがないので、とっとと終わらせたいと思います。
えーと、次回のことですが、ルナマリアとメイリンとミネルバが初めて出会い、シンを含む四角関係状態になってしまいます。
なぜルナマリアとメイリンが艦魂が見えるのかは何にも考えて無かったのでご想像にお任せします。
新しい艦魂が出てくる予定です。
僕が書いている真・恋姫無双―異世界の英雄と恋姫たちの三国志演義の方も興味のある方はぜひ読んでください。お願いします。
感想と評価を送ってきてください。それでは次の投稿で。

FILE2・癒えぬ傷跡（前書き）

今回のサブタイトルは呼んでみればわかります。それと最後の方にあのパイロットが登場します。
前回、新しい艦魂が出ると書いたのですが、事情により書けませんでした。お楽しみにしていた読者の皆様、大変申し訳ありませんでした。

FILE2・癒えぬ傷跡

戦艦『ミネルバ』の1室ではシンと艦魂のミネルバがいた。

「えっと、まずは消毒だな。ミネルバ、痛いけど我慢してくれよな」

シンは消毒を慣れた手つきでやっていた。ミネルバは理由を聞いてみた。

「なんでシン中尉はそんなに消毒が上手なんですか？」

「ああ、それは昔に幼馴染が怪我をしててそれをずっとやってたからだと思うよ。一応治療もできるよ」

「そうなんですか」

答えはそんなに難しいことじゃなかったから納得した。その後もシンは消毒を続け、消毒が終わると、ミネルバの身体にゆっくりと丁寧に包帯を巻いてあげた。

「よかった。ありがとうございました、シン中尉」

「お礼は良いよ。その怪我だと全治には数日はかかるから、激しい行動はやるなよ」

「はい、わかりました」

シンはミネルバの笑顔が誰かに似ていたと感じた。それは2年前に死んだ妹の笑顔と重なる。

「ま、マユ？」

「シン中尉、どうしたんですか」

「いや、お前の笑顔が死んだ妹と重なったからちょっと悲しくなったんだ」

「そうですか。妹さんを……」

「今はもう受け入れたんだ。家族の死を受け入れないとなぜか前に進めない気がするんだ」

「そうだったんですか……」

「でもそのおかげで今の生活や今の仲間がいるんだ。だから家族の死を受け入れてよかったなって思ったんだ」

「シン中尉……」

この時、ミネルバはシンの支えになりたい。そう思った。

その時、プシューというドアのあいた音が聞こえた。そっちの方を見るとそこにはルナマリアとメイリンがいた。

「どうしたの2人とも。俺、何にも悪いことなんかしてないぞ」

「シン～、そっちの女の子はだれなのかな？」

ルナマリアは顔は笑ってたが目だけは笑ってなかった。その時、シ

ンとミネルバは自分の背筋が凍るように感じた。

「そうですよ。気になります」

メイリンもルナマリアと同じく目だけは笑っていなかった。すると、また2人は自分の背筋が凍るように感じた。

「いや～その、なんとゆうか……ねぇ」

「あ……ハイ……」

「「曖昧な返事しない！！」」

「「は、はいっ！」」

やはりこの姉妹からの威圧はすごいなぁ～と感じるシンであった。そのあとはずっと静かだったが、シンがその沈黙を破った。

「えーっと、さっきの質問だけど、こいつはミネルバ。この戦艦の艦魂なんだ」

「「えーッ！ほんとに艦魂なの？」」

「はい」

「そうなんだ。ならいいや。シンにはまだ何にもされてないみたいだし」

「当たり前じゃんかよ！？」

「まあいいや。シン、少しの間、ミネルバ借りるわよ」

「ああ、いいけど」

「じゃあ、後で会いましょう」

そう言ってルナマリアとメイリンはミネルバを他の部屋に連れ込んだ。

「なんだったんだ！？まあいいや。そろそろ寝るか」

そのころ、3人は『ミネルバ』の甲板に居た。

「単刀直入に言うわ。ミネルバ、貴女、もしかして

シンのことが好きなの？」

「えっと……はい。さっき、シン中尉が昔のことで悲しんだ時、少しでも支えてあげたい。そう思ったんです」

「なら、自信を持ちなさい。でも、私もシンのことが好きだから、お互い頑張りましょう」

「まって、私もシンさんのことが好きなの。お姉ちゃんやミネルバには負けたくない」

「メイリン……」

そのころ、プラント国ではジャスティスガンダムのパイロット、アスラン・ザラが今は亡き戦友、ニコル・アマルフィの墓参りにかつての仲間であるイザーク・ジュール中佐とディアッガ・エルスマン大尉とともに来ていた。

「アスラン、ザフト軍に戻って来い。それが戦争の終結に繋がるかもしれないんだ」

「そうだぜ、イザークの言う通りだ」

「だけど……いや、考えてみるよ」

「そうか。もし戻ってこれるなら俺の家に来い」

「わかった」

そのやり取りが終わると、イザークとディアッガは墓地から出て行った。

「ニコル、キラ、カガリ、俺はどうすれば……」

ある日、『ミネルバ』では司令室に全員招集がかかった。

「全員招集ってなんでなんだ？」

「シン、もしかして、知らなかったの！？今日、セイバーガンダムとそのパイロットがミネルバ隊に配属されたのよ」

「ふーん。ま、いいや。そろそろ行こうぜ」

司令室には全員集まり、その確認を終えるとグラディス大佐が口を開いた。

「今日、皆に集まってもらったのはセイバーガンダムとそのパイロットが配属されてきたからです。入って下さい」

セイバーガンダムのパイロットが司令室に入ってくると皆が驚いた。なぜならそのパイロットはもうすでにザフト軍の人間じゃなかったからだ。

「今日からこのミネルバ隊に配属されたセイバーガンダムのパイロットを務めることになった

アスラン・ザラ少佐です」

ＦＩＬＥ２・癒えぬ傷跡（後書き）

今回はアスランが登場しました。
本当は５話くらいに出すつもりでした。アスランファンの皆様、これからアスランも活躍するので見て下さい。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6344h/

機動戦士ガンダムＳＥＥＤＤＥＳＴＩＮＹ－ミネルバ戦記

2010年10月9日23時34分発行